



竣工日 2011年3月



標本館で同志社大学の学生と電子図鑑を作成する理科クラブの児童



児童を守る 備蓄倉庫



吉峰館全景
背景に比叡山が広がります。

吉峰館は、吉村建設工業株式会社様から頂戴した寄付金をもとに、2011年3月に竣工した小学校にとつて第二体育館とも言うべき建物です。名前の由来は、新島襄が好んだ和歌である「吉野山 花待つころの 朝な朝な 心にかかる 峰の白雲」の中に出てくる「吉」と「峰」を組み合わせて命名されました。雄大な比叡山を背景とする、自然豊かな岩倉校地の建物に相応しい名称です。小学校では、運動をしたり学年全体や異年齢の縦割りでの活動ができるような広い場所が少なく、大変苦労していましたので、吉峰館の完成はとても喜ばしい事でした。

また、この吉峰館には、同志社普通学校、女子高、高等商業学校、および大学予科などで教鞭をとられ同志社教育に貢献された、故加藤延年（のぶと）先生が終生の事業として収集された、動物標本を中心に展示収納されている標本館が併設されています。貴重な動物標本が多数あるため、理科の授業や理科クラブ等で活用しています。

さらに、吉峰館の倉庫には、児童や教職員が震災等により学校に避難を余儀なくされた時のため、2日間分の食料や飲料水、毛布、救急用品、非常用トイレ、ランタン、ラジオ等が収納されています。吉峰館は、児童の安全・安心を守るための建物としての役目も担っています。

桑志館(同志社中学校・高等学校)



竣工日 2008年11月4日



ヤード



教室

「桑志」は、1864年3月、新島襄が「脱国」へのスタートともいべき江戸からの脱出である函館への出発直前に詠まれた漢詩の「男児自有蓬桑志(自分には蓬や桑のような盛んな志がある)」から採られた言葉です。

かつて1959年に竣工した旧「桑志館」は「鶏鳴館」と共に、同志社高等学校の戦後の歴史を担い、親しまれてきました。中高統合に伴って宝ヶ池を眺める南校地に新しく建設された高等学校教室棟は、「豊かな人間性」と「優れた学問性」の違いを認め合える共生力」とを育み続ける「知的創造空間I W A K U R A」の中心建物として、この名称を継承しました。

「桑志館」は口の字形の建物で、中庭を囲むように各階に8個のHR教室、2個の特別教室が配置されていて、生徒の日々の学校生活の中心をなしています。陽光あふれる広い廊下には生徒がくつろぐスペースがあり、暖かな木の材質を生かした教室はゆつたりした雰囲気の中で落ち着いて学ぶ空間になっています。ヤードと呼ばれる建物の中庭は、学園祭では野外ステージとしてパフォーマンスで賑わいますが、普段でも昼休みには生徒会が主催する「太陽フェスティバル」など多彩な催しが自由に行われています。